

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 3 月 4 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/4 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 2.0 m ³ /h	17.4	107.3 kPa abs	A系： 0.23 vol %
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.34*2 vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.5 m ³ /h	30.7	6.14 kPa g	A系： 0.03 vol %
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.04 vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 5.5 m ³ /h*3	29.9	0.26 kPa g	A系： 0.16 vol %
		給水系：約 0.0 m ³ /h*3			B系： 0.16 vol %

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

*2: 電源停止作業に伴うデータ欠測のため、直近で計測できている 3/2 11 時現在の数値を記載。

*3: 下記 3/3~3/9 にかけての作業に伴い、原子炉注水流量変更中。

【1号機】・H25/3/3 14:43 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.3 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレ系からの注水量を約 1.9 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。

【2号機】・H25/3/3 14:43 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.9 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレ系からの注水量を約 3.3 m³/h から約 3.5 m³/h に調整。

・H25/3/10~3/16 原子炉注水設備における給水系の信頼性向上工事に伴う事前確認について、原子炉等の冷却状態に有意な変動のないことを確認できたことから、原子炉注水量変更を行い、給水系の信頼性向上工事を実施予定。

【3号機】・H25/3/3~3/9 原子炉注水設備における給水系の信頼性向上工事に伴う事前確認について、原子炉等の冷却状態に有意な変動のないことを確認できたことから、原子炉注水量変更を行い、給水系の信頼性向上工事を実施予定。

・3/3 10:09 上記工事を実施するため、給水系からの注水量を約 1.9m³/hから0m³/h、炉心スプレ系からの注水量を約 3.5m³/hから約 5.5m³/hに調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/4 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	12.0
2号機	循環冷却システム	運転中	12.6
3号機	循環冷却システム	運転中	9.8
4号機	循環冷却システム	運転中	21

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋地下	3/2 10:12 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	2/28 14:02 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (3/4 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/3/4 2号機格納容器内に常設監視計器(温度計・水位計)を設置し、格納容器内部調査(CRD交換レールおよびペDESTAL開口部近傍)・滞留水サンプリングを今後実施するため、既設の格納容器雰囲気温度計(平成24年9月設置済)を撤去。

・H25/3/3 11:14 頃 福島第一原子力発電所常用高台炉注水ポンプ(B)のグランド水を受けているドレン受けから、グランド水が地面(アスファルト)へ漏水していることを、巡視点検中の当社社員が発見。グランド水が漏れた原因は、ドレン受けからの排水ホースが資材に挟まれて閉塞状態となったことで排水できず、グランド水がドレン受けから溢れ、排水ホースを伝って地面へ滴下したものと推定。そのため、排水ホースの位置を手直しして排水ホースの閉塞状態を改善し、同日 11:33 にドレン受けからの漏えいが停止したことを確認。漏れた水の範囲は約2m×約4m×約1mmで、漏えい量は約8リットル。また、漏れた水は土のうによる堰内にとどまっており、堰外への流出はない。漏えい箇所付近の雰囲気線量率を測定した結果、 γ 線が 0.12mSv/h、 $\gamma \cdot \beta$ 線が 0.15mSv/h。また、漏れた水を核種分析した結果は、セシウム-134 が $4.1 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム-137 が $9.0 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ 、アンチモン-125 が $1.8 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ であることを確認。なお、原子炉注水への影響はない。

・H25/3/4 8:55 待機中(動作可能な状態)の窒素供給装置(高台窒素ガス分離装置)について、本格点検のため同装置を待機除外とした*。なお、点検中は窒素ガス分離装置(常用)を2台運転して、1～3号機原子炉圧力容器等への窒素ガス封入を継続する。

* 原子炉施設保安規定第12章「中期的安全確保の考え方」に基づく設備の管理においては、「運転上の制限」や「運転上の制限を満足しない場合に要求される措置」等が定められており、運転上の制限を満足していない場合には、要求される措置に基づき対応することになっている。今回の場合は、保全作業の実施のため計画的に運転上の制限外に移行(3/4 8:55 から)して、高台窒素ガス分離装置を待機除外とした。

・H25/3/5 2号機ベント管下部周辺調査を、「4足歩行ロボット」および「小型走行車」を使用して、順次再開する予定。

以上